

Senriyama

千里山建築会会報

第 21 号 2009 年 3 月 15 日発行

千里山建築会

〒 564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西大学 環境都市工学部 建築学科内

TEL : 06-6368-1121 (代表)

FAX : 06-6368-0093 (建築学科共通)

Contents

□ 三副会長の挨拶

□ 学内の話題

- ・ 教室だより
- ・ 関大高槻新キャンパス計画について
- ・ 空き家リノベーション
— 佐治スタジオ —

□ 事務局から

- ・ スプリングフェスティバル懇親会
- ・ 事業、会計報告
- ・ 事務局からのお願い

三副会長の挨拶

震災後、地域と心の交流を図り連携を保つ意味で始められた神戸発「トライやるウィーク」はいまや単なる職業体験と意味をすりかえられて全国に広がっています。私が受け入れた中学生には家族を見つめなおす意味で「住宅」の設計を、「危険」認識のために建設現場で「危険感受性向上教育」をおこないました。それを東京での全国大会の折に発表してから、今現在大手企業が「危険感受性向上教育」の重要性を認識して取り組み始め、高齢労働者対応の安全靴など現場環境の改善も含め私もその講師の1人として携わっています。これには、関大で学んだ「建築心理学」、「高齢者などの弱者に関する研究」が大いに役立っています。また、卒業後は他の研究室の先生方（音響・環境計測、社寺設計など）の下に通って親切にお教えいただきました。自分のフィールド以外の建築関連分野は千里山建築会を利用していただければ幅広い視野が開けると思います。

(7 期 吉井政雄)

住宅を主にした設計事務所を開いてちょうど 10 年になりますが、数年前から、建築学科 2 回生後期の設計製図を非常勤講師として担当させていただいており、毎週なつかしのキャンパスを訪れています。課題は、「住宅」と「アーバンスモールビル」の 2 課題ですが、非常勤講師を含めた 8 人の講師にそれぞれ、15～16 人ずつの学生が割り当てられて、スタジオ制で、進められます。建

築学科の生徒数は、1 学年 120 名ほどで、われわれの時代とさほど変わりませんが、指導者数が圧倒的に増えて、中身はずっと濃くなっています。先輩のコンペや卒業設計の手伝いをする学生もおり、建築学科も活性化されていて、面白いです。卒業生も逸材がたくさんおられます。千里山建築会ももっと活性化してゆきたいと思っています。

(16 期 前田由利)

建築学科卒業生同期での横のつながり、研究室を通じての先輩後輩での縦のつながりがあります。卒業してから、仕事、遊びを通して、それぞれの立場や場面によりますが、同窓ということが「ありがたく」感じる事がよくあると思います。卒業生全体の会として校友会があります。各地域在住で卒業年、学部学科、職業など幅広い集まりで魅力的です。一方、千里山建築会は多くが建築に関わり「さらに魅力的な集団」、のはずです。4 年一度の総会・懇親会に 100 名近い卒業生が集っていますが、4 年に一度と言わず、1 年に一度集まり、日常的なつながりにまで展開させて、縦と横の軸を一緒に構築していきましょう。ぜひ 4 月スプリングフェスティバル当日、建築学科懇親会にお集まりください。

(16 期 谷口欣久)

既に30年以上関西大学に奉職し、この間建築学科から教養教室へと移籍し、また2年前に建築学科に戻り、平成20年度、学科の教育主任(学科長)をおおせつかつています。あらためまして、よろしく願い申し上げます。

学内状況としては、2年前に工学部が3学部へ改組され、その中の環境都市工学部に建築学科が所属し、現在の建築学科は16名の教員と2名の技術員で構成されています。一般の4年の大学制度からしますと、旧の工学部と新の環境都市工学部の建築学科の学生数はシステム上ちょうど半数ずつになっているはずですが、なぜか実態はそうではありません。学科教員の学部役割に目を向けますと、昨年9月学部の執行部の改編があり、10月から河井康人先生が引き続き副学部長として、大学を始め、学部と学科の運営に深く関わっておられ、榊井健先生が教学主任としてやはり学部・学科のために色々と尽力されています。通常ですと、この次に人事関係のことを書くべきですが、実は何も特筆すべきことはなく、増減のない平穏そのものでした。教育主任としては、書くべき記事がないことから少し寂しい気がしますが、学科内の責務は少なくありませんでした。

皆さんもご存じの通り、第4学舎2号館(旧工学部新研究棟)の6階には建築学科の研究室とは別に集会室(その他、準備室とパントリー)があり、そこでは学部運営のための教授会等が開催され、その役割を果たしてきました。一方で、最近では建築学科の卒業設計の発表の場として利用されていました。しかし、学部改組に伴い、その集会室等の殆どのスペースが建築学科に割り当てられることに決まり、その結果、夏の休業後には学科に3つの個室と2つの研究室が新たに加わり、建築学科の占める面積が増加し、研究・教育面で充実することになりました。一方、体育館横のテニスコート跡に、第4学舎3号館が完成し、1,2階には大教室、3階には各種製図のための実習室としてデザイン教室、4階には教授会等に利用される部屋が整備されました。屋上には、空中テニスコートが、また建物を利用した室内練習場が

地上に完成し、運動部員が練習に勤しんでいます。空間を多目的に利用した少し奇異とも、ユニークとも感じられる建物です。

耐震偽装の問題も収束したかと思っていた矢先、国土交通省の方から建築士法が改正されました。この時期に至って、この改正は大学に大きな波紋が押し寄せてきました。学部卒に対して、今までの科目に加えて建築行政と建築生産を履修しなければ建築士を受ける資格が与えられないことになりました。幸い当建築学科では先見の明があつて、改組の時に既にこれらの科目を設けていました。これだけではありません。大学院卒に関しては、今までの大学院の修士課程の2年間は1級建築士の受験のための実務として無条件にカウントされていましたが、これが認められなくなりました。そこで、教室では、科目履修を実務経験に対応させるよう努力した結果、2009年度入学生より、1級建築士試験の大学院における実務経験年数の規定については、当該課程で認定を受けた科目を修得し、修了すれば、実務経験年数1年相当とみなすという回答を得ました。

就職関係に関しては、いわゆる団塊の世代の退職に伴い、景気回復の兆しが見られたかなと思つたのも束の間、米国からのサブプライム問題に関連して急展開し、世界的な不景気に陥ってしまいました。本来、低所得者を対象にした救済が天と地がひっくり返ってしまう事態になってしまい、建築業界もご多分にもれず、その波紋が覆いかかってくるのも事実です。しかし、このような状況が長続きするとは思えない理由として、歴史的に振り返ってもこれまではそうでした。今は、じつと我慢する時期ではないでしょうか。

最近の世情に反映し、発展的な記述に乏しいことに加え、暗い話題が多くなりましたが、皆さまには、卒業生としてのなご一層のご支援と今後新たな卒業生に対し、暖かいご指導を賜りますようお願いを申し上げます。今後の景気回復を期待しつつ、教室便りの拙文とさせていただきます。

関大高槻新キャンパス計画について //22期 市原 淳

みなさま、平成4年卒業(22期生)の市原です。現在、関西大学の施設課に勤務しております。毎回キャンパス案内を投稿させていただいておりますが、本年は、JR高槻駅で行っております。高槻新キャンパスの計画について案内させていただきます。

<立地>

本計画はJR高槻駅の北東に位置しております。JR

高槻駅北東地区開発事業のうちの一計画として進められております。平成16年5月に、都市再生特別措置法に基づく都市再生緊急整備地域に指定さ



れたこの地域内のジーエス・ユアサ・インターナショナルの工場跡地に、集合住宅、医療施設、教育施設などをデッキで結び活性化を図るという開発事業になっております。

ジーエス・ユアサ・インターナショナルの工場跡地につきましては、約9.3 haあり、A、B、Cエリアの3つに分けられております。関西大学はこのうちの一番東側のCエリアに位置しております。

高槻市HPアドレス

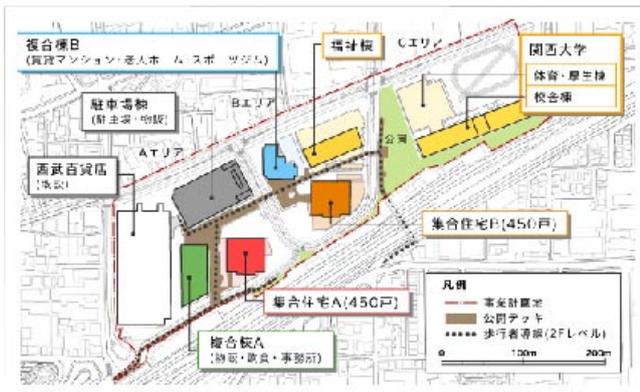
<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/db/toshikeikaku/jr-hokuto-gaiyo.htm>



<組織>

本計画は全体の開発を「JR高槻駅北東地区開発事業まちづくり協議会」（以後「まちづくり協議会」）という組織を作って進めております。この「まちづくり協議会」は、関西大学、阪急不動産株式会社、社会医療法人愛仁会（高槻病院）、株式会社西武百貨店、高槻市JR高槻駅北東土地画整理組合と5つの事業者が集合して組織されております。

「まちづくり協議会」の集まりには上記事業者の他に、それぞれの事業者の計画を担当されている設計会社及び施工会社が加わっております。「まちづくり協議会」はいくつかの部会に分かれており、全体計画の調整、近隣対応、施工計画の調整、工事車両調整等様々な協議を行っております。建築学科の卒業生で東畑建築事務所の宮本さん（平成4年卒、22期、川道研）は、高槻病院のご担当で偶然にもお仕事を一緒にさせていただいております。また、本学の施工を請け負っていただいております、(株)竹中工務店の所長に、昭和59年卒安藤



幸一さん（14期生、山田研）が、所員に平成4年卒味岡取一さん（22期生、丸茂研）がおられ、関大卒業生色濃いです（笑）余談ですが、この「まちづくり協議会」は」当然ながら開発区域の近くに事務所をかまえており、打合せ等はJR高槻駅付近で行われております。私は家が高槻ですので、一見都合良いのですが、朝高槻から千里山に出勤→千里山から高槻に移動して打合せ→高槻から千里山に戻り業務→千里山から高槻市役所に打合せ→高槻から千里山に戻り業務→千里山から高槻に帰宅・・・などということも多々あります（苦笑）

まちづくり協議会HPアドレス（「みらい高槻」と検索でヒットします）

<http://www.takatsuki-ekimae.com/index.php>

<計画>

本学の計画は上述のCエリア、約17,000㎡の敷地に、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院を新設いたします（詳しくはHPをご参



照ください）。建物規模は約53,200㎡、高さ約54mの13階建てです。大きく分けて、校舎棟と体育・厚生棟に分かれており、校舎棟は鉄骨造、体育・厚生棟は鉄筋コンクリート造となります。

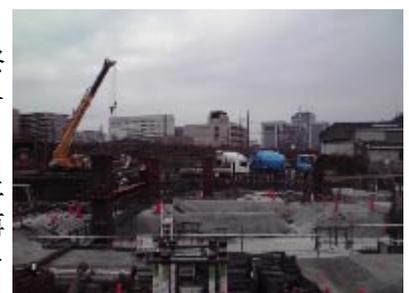
工事の本格的な着工は平成20年11月12日で平成22年3月に竣工し、平成22年4月に開校する予定です。当初（平成18年頃）は平成20年12月からしか着工出来ないと言われておりましたが、本学の開校から建物規模を勘案して逆算すると、平成20年10月から着工する必要があり、まちづくり協議会もそのスケジュールで進んでおりました。後述しますが、平成20年の9月30日に建築確認済証の交付がなされ、すぐさま着工したかったのですが、近隣との工事協定書の締結に手間取り、40日以上遅れをとってしまいました。平成21年1月初旬時点で杭工事が終わり、急ピッチで作業が進められております。（安藤さん、味岡さんよろしくお祈りします!!）

関西大学高槻新キャンパスHPアドレス

<http://www.kansai-u.ac.jp/tnc/index.html>

<手続き>

私は、本プロジェクトには平成17年の終わり頃から担当させていただいておりますが、本計画は、土地画整理事業と再開発事業が並行して



行われていることや、開発事業に関して都市計画の変更手続きがあります。都市計画変更・決定は主に都市計画道路と防火地域等です。これらは高槻市議会を経て決定され、その決定に基づき区画整理事業が行われます。



区画整理事業は、まず地権者等で構成される土地区画整理組合設立準備会というものを立ち上げ、区画整理する土地の仮換地が行われました。仮換地の指定が行われ、土地区画整理組合が設立されると、現実に立ち退き等が進んでいきます。今回はこの土地区画整理組合設立が平成20年8月末でありましたから、必然的に開発事業の手続きはその後ということになります。本学につきましては平成20年10月着工が使命でしたので、建築確認申請は9月初旬に行いました。この確認申請までの期間で平成20年に入ってからのことが並行して行われました。

平成19年		平成20年											
12月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
土地区画整理組合設立準備会										土地区画整理事業			
仮換地指定(高槻市)													
建築確認申請													
着工													
近隣対応(中間協議・工事協定)													

- ・環境影響評価
- ・建築計画の策定
- ・構造評定
- ・防災評定
- ・近隣対応



＜近隣対応＞

今回の計画は環境影響評価を伴う大規模な開発事業であります。高さの2.5倍の範囲の近隣様と協議し、各自治会と工事協定を結ぶ必要がありました。本学の場合は周辺9つの自治会(中には世帯数400を超える自治会もありました)に

説明会を開き、工事協定を結び、また自治会に入会していない個人や団体(約30か所)には個別に説明する必要がありました。工事協定につきましては紆余曲折あり、建築確認済証交付までに9つのうち8つの自治会と締結、残る1自治会とは11月に締結し着工にたどり着きました。

このように大規模な近隣対応をしたことがなかったので、一日一日が大変勉強になりました。

＜まとめ＞

現在工事は杭打ち(15mの場所打ち杭を133本)を終え基礎の配筋工事を行っております。今年夏頃には躯体工事を終え、内装仕上げに入っていく予定です。

関西大学は平成22年3月に工事を終えますが、他の事業は平成24年までかかる予定です。

今年の4月以降に、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院と順次、生徒・学生の募集を行っていきます。

以上



空き家リノベーション —佐治スタジオ— //36期 出町 慎

現在、環境都市工学部では文部科学省「平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の助成を受け、兵庫県丹波市青垣町佐治を舞台に地域内に多く存在する空き家を学生と住民が交流しながら改修し、再活用を行う「空き家リノベーション」を通じて、「関わり続けるという定住のカタチ」、「21世紀の故郷づくり」をテーマに、関西大学と丹波市が連携協定を結び、地域住民、専門家と交流し、協働しながら地域の再生に取り組んでいます。

私は、学部を卒業後、員外研究者を経て「TAFS佐治スタジオ研究員」として現地の空き家を借用し、学生や住民の方々と改修した現地活動拠点「佐治スタジオ」に滞在しながら、大学と地域の間に入って、地域の再生へ向けた活動を行っています。

活動の舞台となる佐治の集落は青垣町の中心に位置し、豊かな山河に囲まれ、江戸時代は京・大阪を結ぶ古代山陰街道の宿駅として栄え、明治時代には製糸業により隆盛を極めました。近年は人口の減少、店舗の閉店、空き家の増加等により閑散とした



岩屋山の頂上から見た青垣町佐治の風景

町になってはいますが、集落を囲む美しい山河や宿場町の面影を残す町並みは新たな故郷として私たちに優しく迎えてくれます。

この地域再生の取り組みは、2006年9月青垣町佐治を舞台に実施された日本建築学会創立120周年記念近畿支部主催事業「美しくまちをつくる、むらをつくる」設計・計画提案競技に当時の研究室のメンバーで応募し、丹波市長賞を受賞したことに始まり、学生が地域の人々と交流し、さらに学生がその後も途切れることなく地域に関わり続けることで、結果的に地域に常に学生が居続けることになり、過疎化に悩む地域に新しい「定住のカタチ」を生み出すというもので、さらには、都会育ちで故郷を持たない学生たちにとっては、関わり続けることで、将来家族や友人を連れて訪れることのできる豊かな山河に囲まれた「故郷」を持つことができると考えました。



妻入り町家の並ぶ佐治の町並み

本取組の中でメインプログラムとなるのが「空き家リノベーション」で、佐治のまちには空き家が多く存在し、そのままにしておけば急速に朽ちていき、まちなみや風景は失われていきます。そこで空き家を改修し社会資本として再活用していくことを考えました。最初の空き家リノベーションでは、街道に面する築80年の空き家を借りて、1階を学生と住民が交流し、活動する拠点となる「佐治スタジオ」としてまちの中に「まちの居場所」を作りました、2階を学生が継続的に長期間まちに滞在できる「ゲストハウス」として整備することとしました。

私たちの空き家の改修には設計図はありません。地元大工や専門家の支援を受けながら学生と住民が現場で議論を重ね、協働しながら進めていきます。さらに改修の過程を地域に開き、改



改修作業を行う学生達

修の効果を地域に波及していくために、改修がその場だけの特別なものになってはいけないと考え、専門的な難しい大工事を行わず、誰でも真似が出来る簡単で小さな作業で進めていきました。

解体前の佐治スタジオは40年ほど前の改修によって室内の大部分が新建材で覆い尽くされた状態になっていて、まずは、この家を元の姿に戻すことから始めました。天井をめくれば、立派な大和屋根が姿を現し、昔の民家の作りの魅力を感じる反面、洋室の壁をめくれば鉄の波板1枚で外と接している、断熱材もなく構造的にも弱い状態、上を見上げれば、室内から空が見える…「これはマズイ、冬の壮絶な寒さにも納得がきました。

青垣町は地域の80%を森林が占めており、かつては林業の盛んな地域であったのだが、今では荒れた山が多くあることが地域の問題となっています。そこで私たちは、地域資源の木材をたくさん使おうと考えました。まず、床は45mmの杉板を使うなど木材で構造的に補強し、分厚い木材の断熱効果の特性を生かすことで熱環境を整え、また、木材は様々な美しい表情を持っており、化粧材としても使用しました。このように木材を「構造」「断熱」「化粧」という面から評価し使用することで、地域資源の魅力を発信し、活用が促されると考えました。

バーカウンターのある交流スペースと交流の様子



また街道に面して、交流スペースを設けたり、交流しやすいように通り土間を作ったり、議論や交流を重ねる中から地域の課題を見つけ、改修に生かすことで、地域の再生を考えていきました。

改修後の佐治スタジオには、多くの学生が訪れ、週末には小学生たちのたまり場になり、夜になれば地域の方々が寄り集まるとは、学生や住民同士の交流を楽しんでいます。玄関の格子戸から漏れる灯りがまちに彩りを与えています。ただ一軒の空き家を改修するだけが目的ではなく、改修を通じて、分断されている「ひと」「いえ」「まち」「地域」の関係を連続させていくことで、地域環境をデザインしていくことが大切だと考えています。

今年の2月より次の空き家の改修が始まっています。私たちの活動がすぐに効果を発揮し、地域に影響を与えるとは考えていません、むしろ、長い時間をかけて地域と関わりながら地域の再生に取り組んでいきたいと思ひます。

皆様も丹波へ足をお運びになる機会がございましたら、佐治スタジオへも是非お立ち寄り下さい。



佐治スタジオのある街並みと格子戸から漏れる灯り

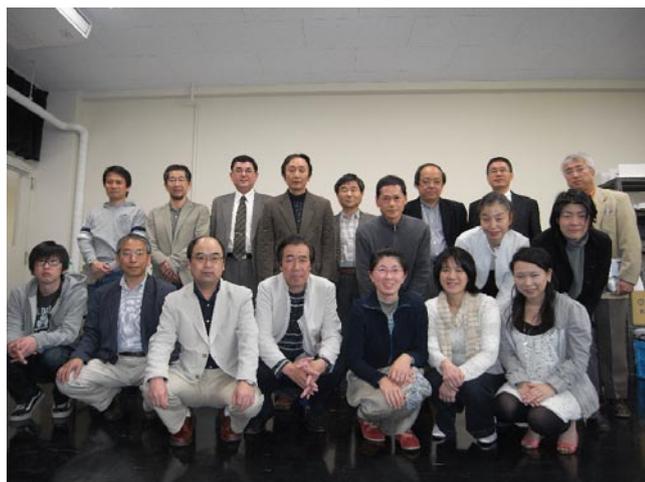
事務局から

スプリングフェスティバル懇親会 //18期 橋寺 知子

平成20年4月6日、恒例のスプリングフェスティバルが千里山キャンパスにおいて開催されました。毎年度、この会報でもお知らせしているように、キャンパスは大きく変わっ



ています。花見を兼ねて集う校友は年々増えているように感じられます。千里山建築会でも世代を超えた交流の場として、建築学科会議室にささやかな懇談の場を設け、恒例のキャンパスツアーも開催しました。第4学舎(新校舎・3号館屋上)の“空中テニスコート”は気分よくプレーできそうですが、初心者には難しいコートかもしれません。続いて、関西大学博物館(簡文館)、高松塚古墳壁画再現展示室、第1学舎新1号館(豊臣期大坂図屏風、千里ホール等)などを見学しました。特に第1学舎付近は大きく様変わりし、昔の様子が思い出せないほどです。



キャンパスの変貌を、ぜひご自分の眼で確かめて下さい。今年のスプリングフェスティバル・懇親会は下記の通り計画しておりますので、キャンパス見学に、あるいは情報交換の場として、どうぞふるってご参加下さい。

【スプリングフェスティバル懇親会の日程】

日時：平成21年4月5日(日) 14:30～16:30
場所：建築学科第1会議室(2号館研究棟6階)
会費：1,000円(ただし、同伴家族は無料)

飲み物・スナックなどを用意しておりますので、ご家族、ご友人とお気軽にお立ち寄り下さい。
予約は不要です、直接会場にお越し下さい。

事業、会計報告

平成19年度会計報告(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

収入の部		支出の部	
繰越金	2,278,717	記念写真費	88,600
スプリングフェスティバル会費	18,000	スプリングフェスティバル	32,940
会員入会費	95,000	写真発送アルバイト	4,000
銀行利息	1,111	写真発送費	32,240
		印刷費トナー代	22,290
		会報発行アルバイト	22,800
		会報郵送代	79,900
		幹事会・懇親会補助	32,898
		繰越金	2,077,160
合計	2,392,828	合計	2,392,828

繰越金明細	
郵便定額貯金	1,000,000
郵便普通貯金	330,604
りそな普通預金	701,394
現金	44,622
合計	2,077,160

平成19年度事業報告(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

平成19年度に実施した主な事業は次の通りです。

平成19年

- 4月8日 第1回幹事会開催
スプリングフェスティバル懇親会開催
- 11月10日 第2回幹事会開催
- 12月18日 第3回幹事会開催

平成20年

- 3月15日 会報第20号発行、会費納入者に郵送
- 3月20日 卒業式にて新会員勧誘、卒業写真撮影

事務局からのお願い

千里山建築会では学内サーバーにホームページを設けています。イベントのお知らせや会報のカラー版なども掲載しておりますのでぜひご覧下さい。

<http://www.arch.kansai-u.ac.jp/senri2003/index.htm>

同期会やゼミ同窓会を開催されたときは、写真などを添えてそのときの様子などをお知らせ下さい。会報に掲載させていただきます。また、住所や勤務先に変更のあった方は千里山建築会までお知らせ下さい。